

記憶にふれる



大久野島

大久野島は、広島県竹原市の瀬戸内海に位置する周囲4.3kmの小さい島である。ウサギの島や、毒ガスの島とも呼ばれる。太平洋戦争で使用するための毒ガスが製造されていた。

大久野島では正確な生息数調査は行われていないが、現在1000羽を超える野生のウサギが生息していると推定されている。このウサギたちは、昭和40年代に本土側の小学校で飼育されていたものが大久野島に持ち込まれたこと、島内に訪れた観光客たちによって持ち込まれたことが原因でこの島内に生息している。このウサギたちは野生であり、ボランティアでフンの掃除や、エサを与えている人がいるが、公的には人間から管理されていない。

大久野島では1929(昭和4)年から1944(昭和19)年頃まで毒ガスが製造されており、今も毒ガス貯蔵庫跡や発電所跡が島に点在している。この毒ガスは日中戦争で使用されたとされている。万が一、事故が起きた場合に被害が少なく、離島であるため毒ガスを製造していることを秘密にできることから、大久野島で毒ガスが製造された。当時、3世帯の住民が大久野島で生活していたが、大久野島から強制移住させられた。毒ガスが製造されている間、軍事秘密保持のために地図から大久野島は存在が消されていた。



大久野島位置

コンセプト

大久野島のことについて理解を深め、毒ガス製造の歴史について理解してもらうため、大久野島歴史資料館を計画する。その他に展望台、宿泊施設の機能も設ける。大久野島を一望できる高所に資料館を計画することで、負の歴史と平和な現状を見比べることができる。これによってより深く過去に人々が犯してしまった過ちを体感することができ、人々の記憶に刻み込まれる。

宿泊施設

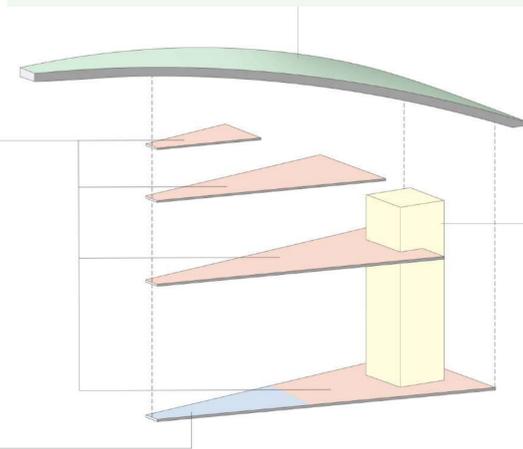
美しい景色を眺めながらゆったりとくつろぎ平和な現状を体感することができる空間。宿泊室はすべてバルコニーを設けることで、瀬戸内海の美しい景色を眺めることができる。

レストラン

この施設に訪れた観光客が瀬戸内海の美しい景色を眺めながら食事をする空間とする。ウサギを料理として提供することで、よりウサギに対して正しく接することができる。

展望エリア

大久野島に生息する野ウサギとの交流空間。ウサギとヒトとの正しい接し方を学ぶ。また、負の歴史を目の当たりにし、沈んだ気持ちを癒す空間でもある。



用途ダイアグラム

大久野島歴史資料館

大久野島における毒ガス製造の負の歴史と、ウサギなどの平和な現状について学ぶ空間とする。歴史資料館としての役割だけでなく、地中に現在も存在していると考えられる毒ガスの調査を行う穴をスペースを計画する。その穴も展示物のひとつとし、毒ガスの調査が現在も行われていることを見ることで、毒ガス製造の歴史を実感することができる。



大久野島第二橋
(2020. 7. 2 撮影)



長浦毒ガス貯蔵庫跡
(2020. 9. 6 撮影)



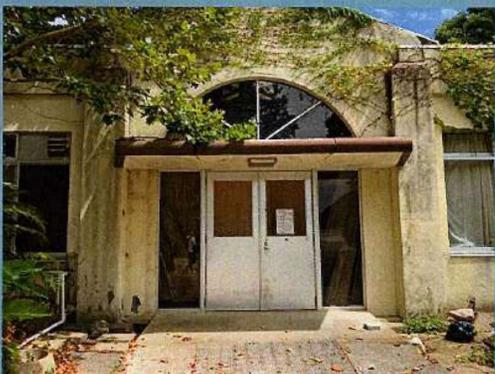
長浦毒物貯蔵庫跡



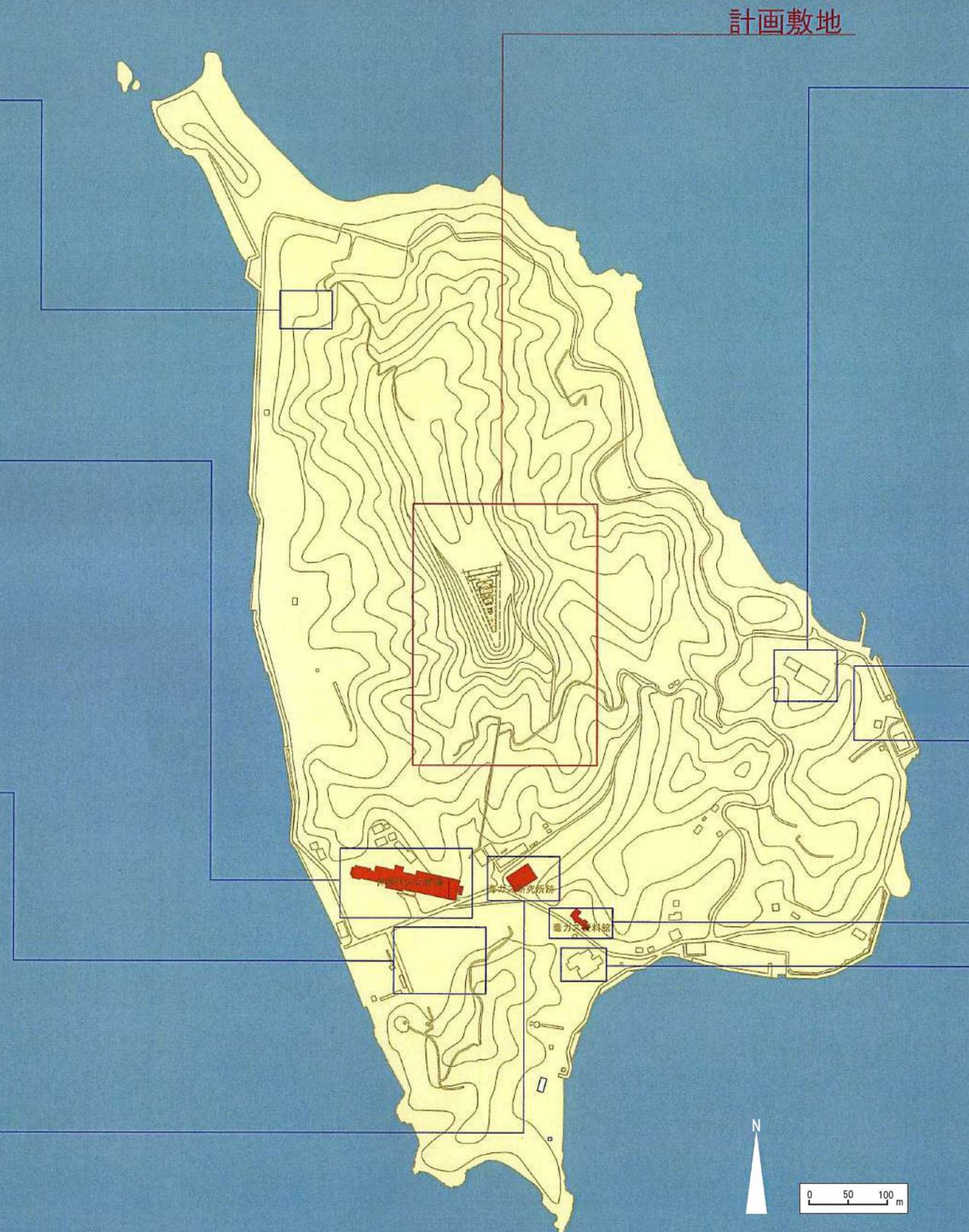
休暇村大久野島



瀬戸内海国立公園大久野島



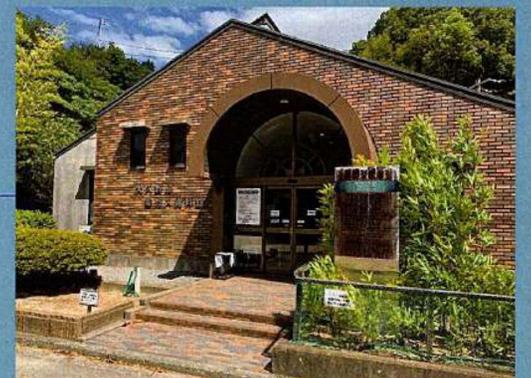
毒ガス研究所跡



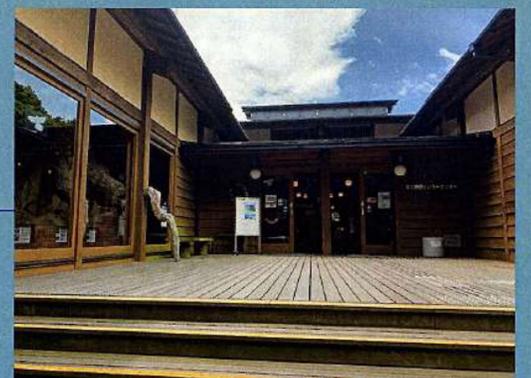
発電所跡



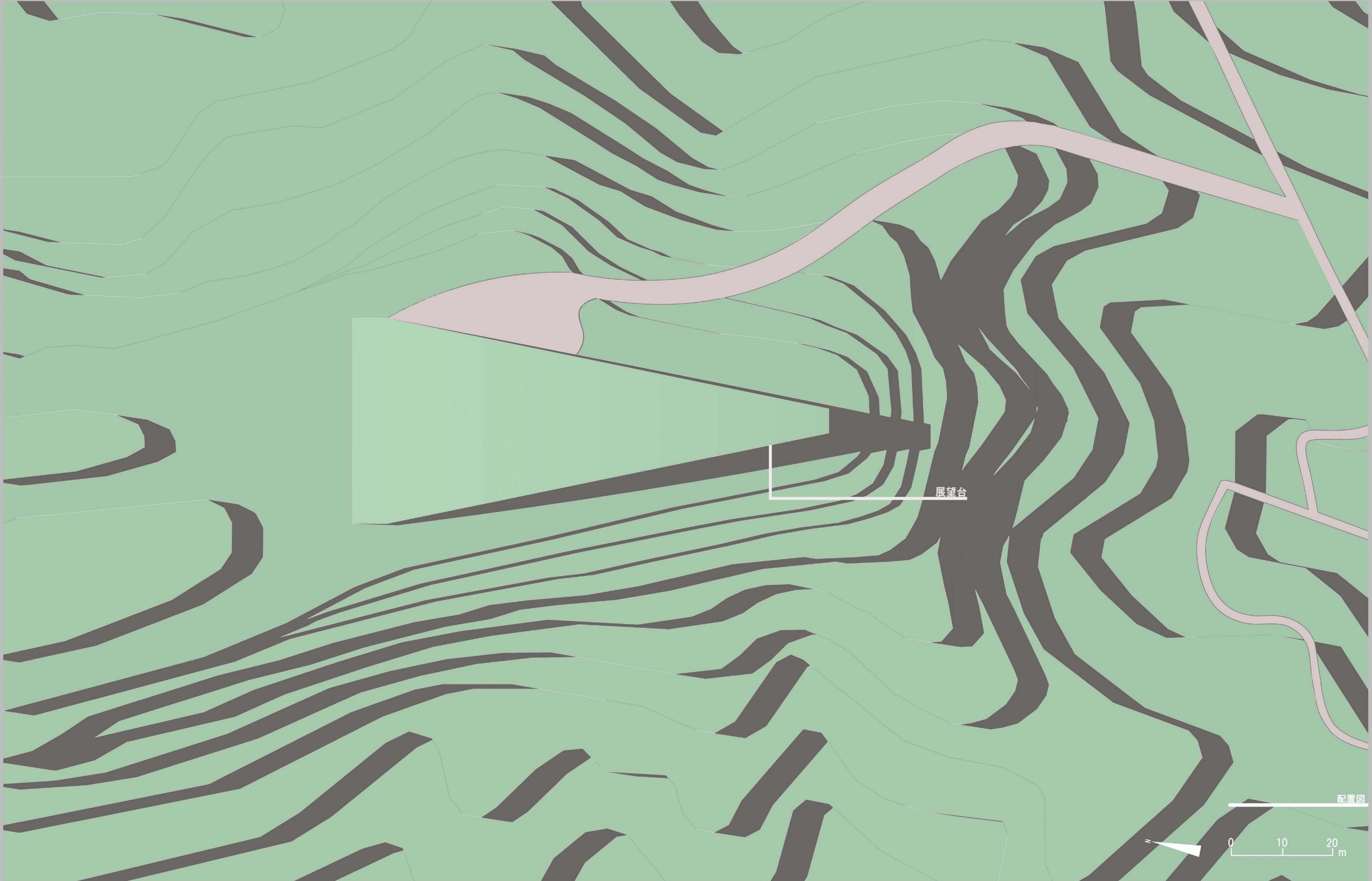
第二棧橋

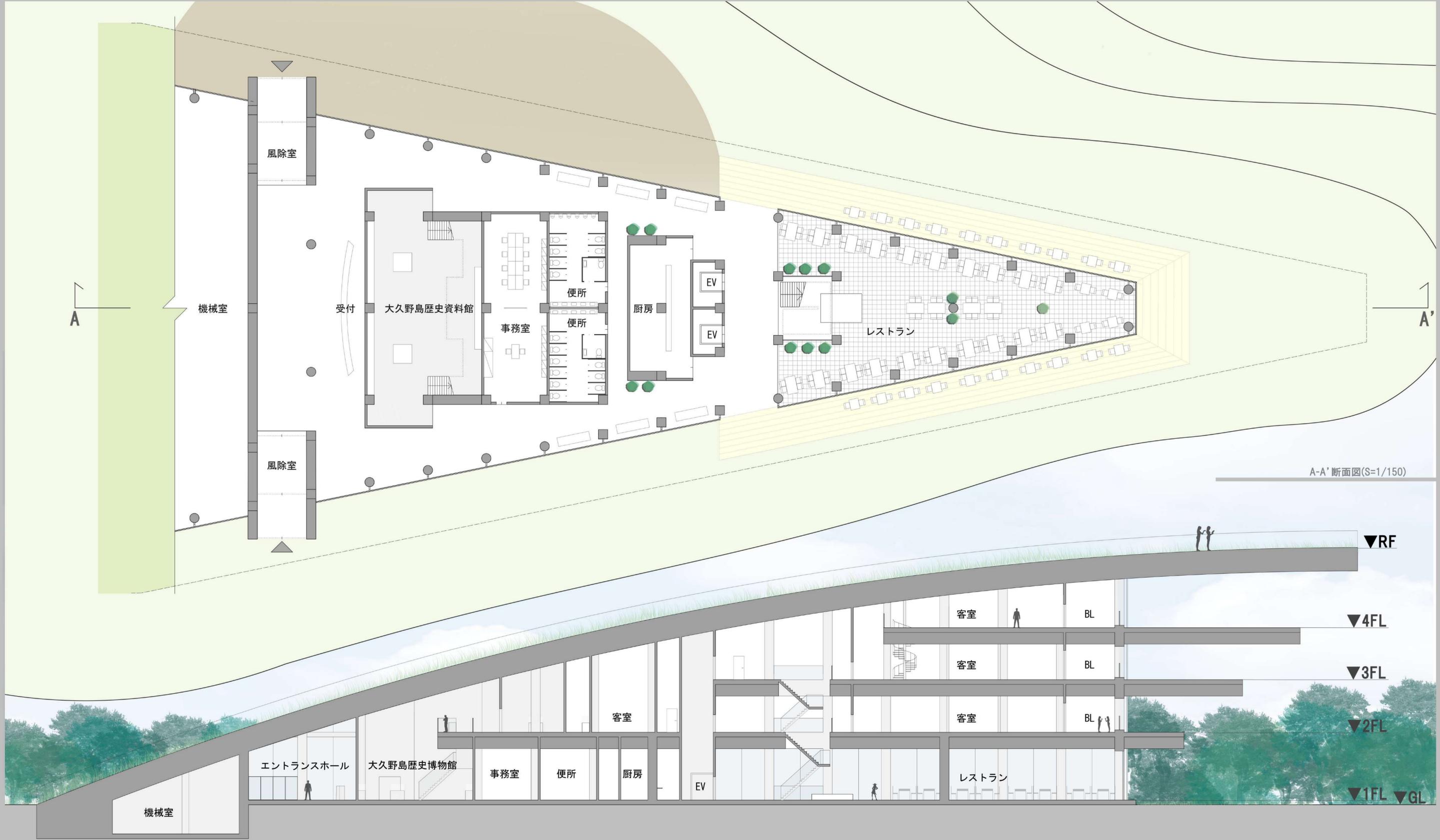


大久野島毒ガス資料館



大久野島ビジターセンター





A-A' 断面図(S=1/150)

▼RF

▼4FL

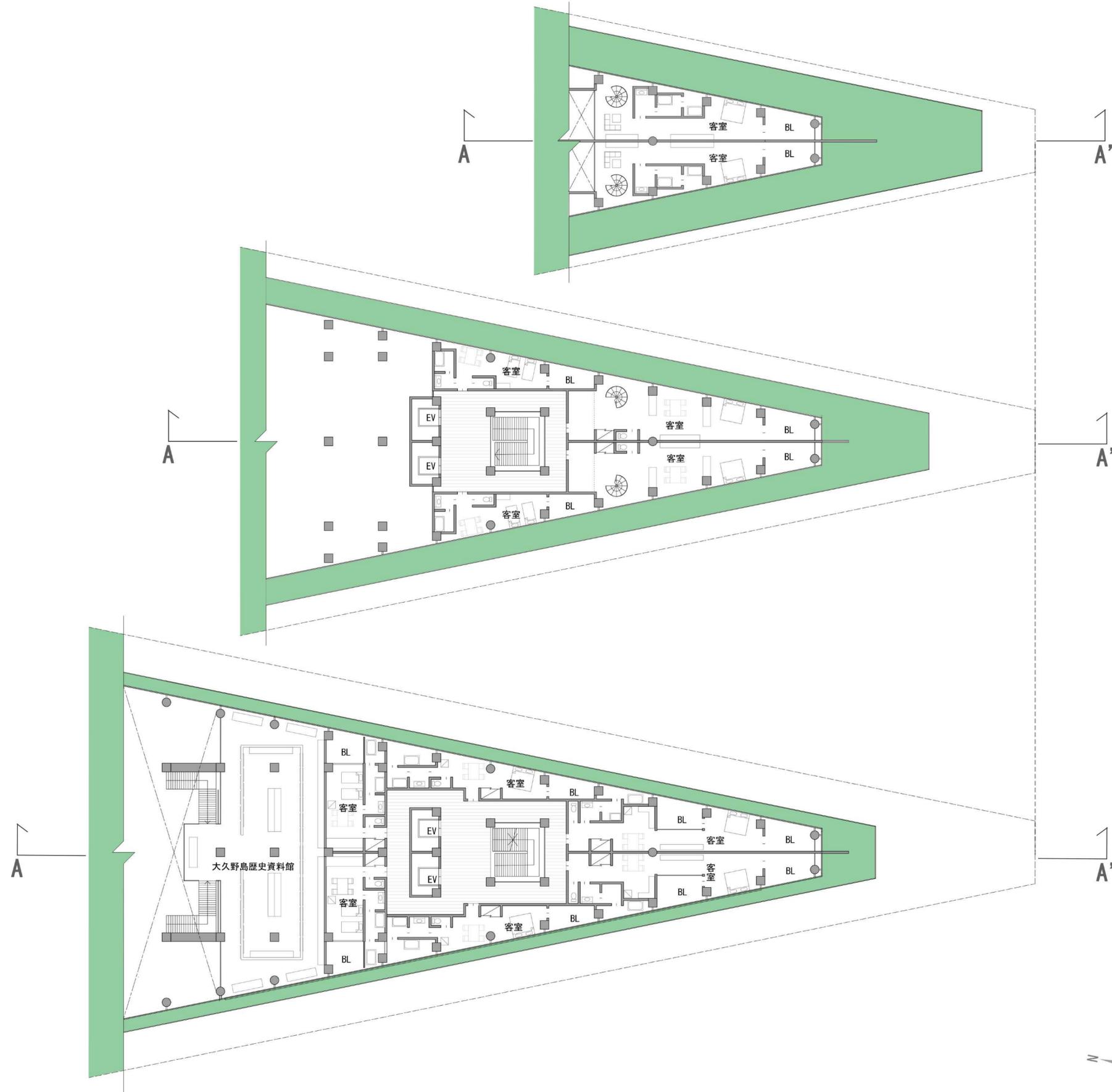
▼3FL

▼2FL

▼1FL ▼GL



A-A' 断面図(S=1/150)



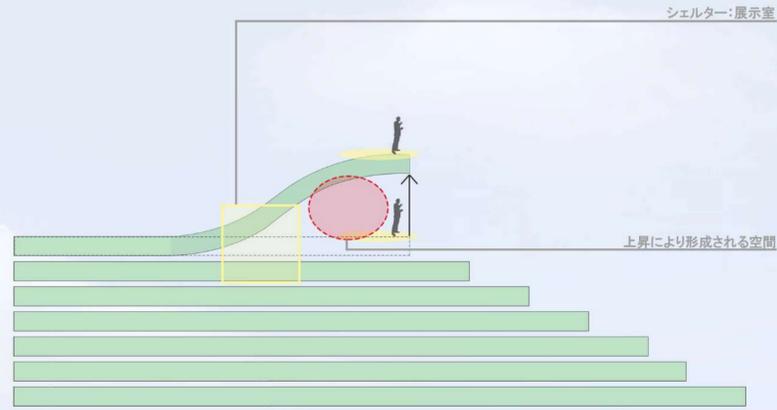
4階平面図(S=1/200)

3階平面図(S=1/200)

2階平面図(S=1/200)



大久野島の灯台としての役割

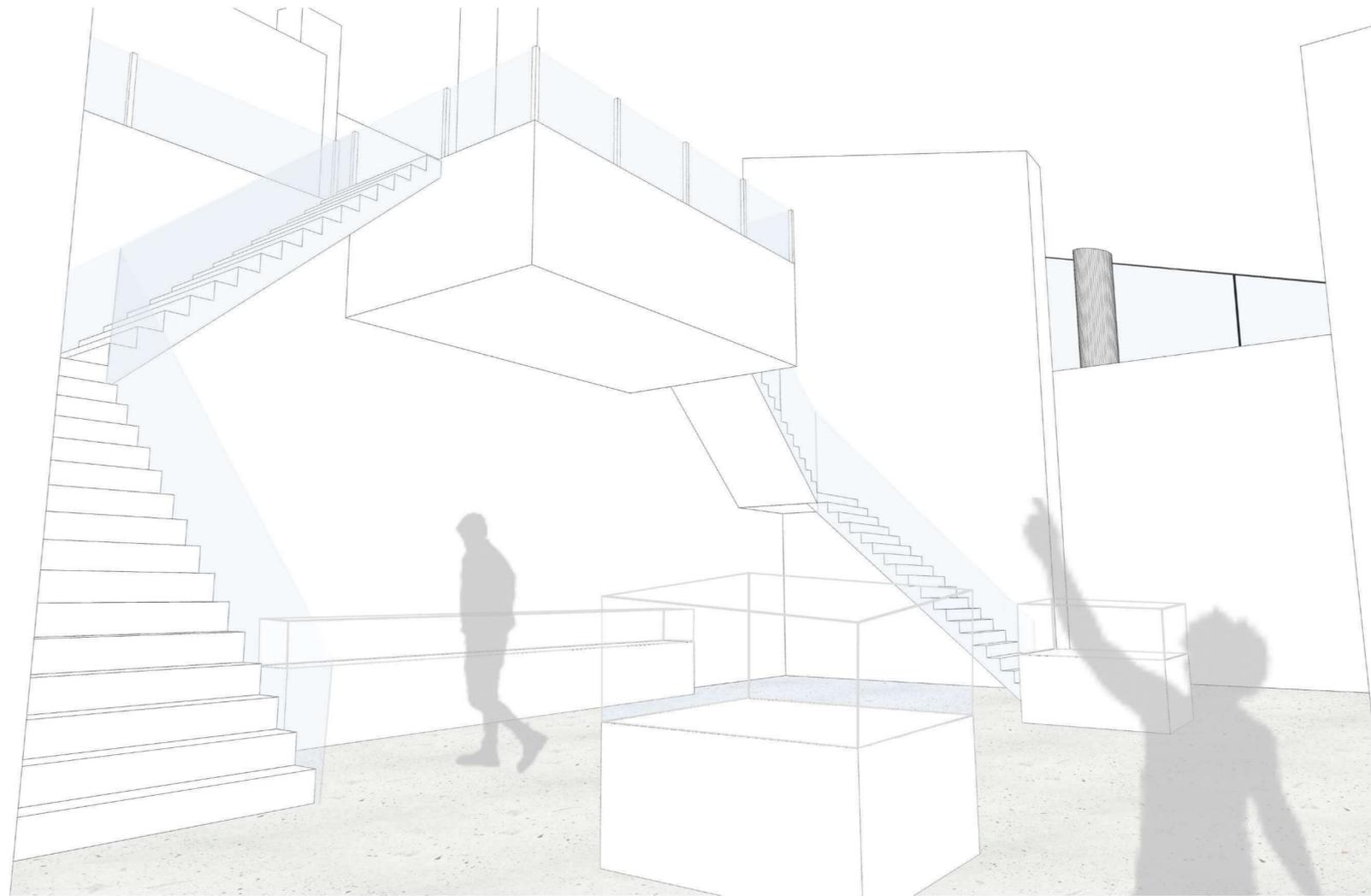


地面の上昇により形成される空間

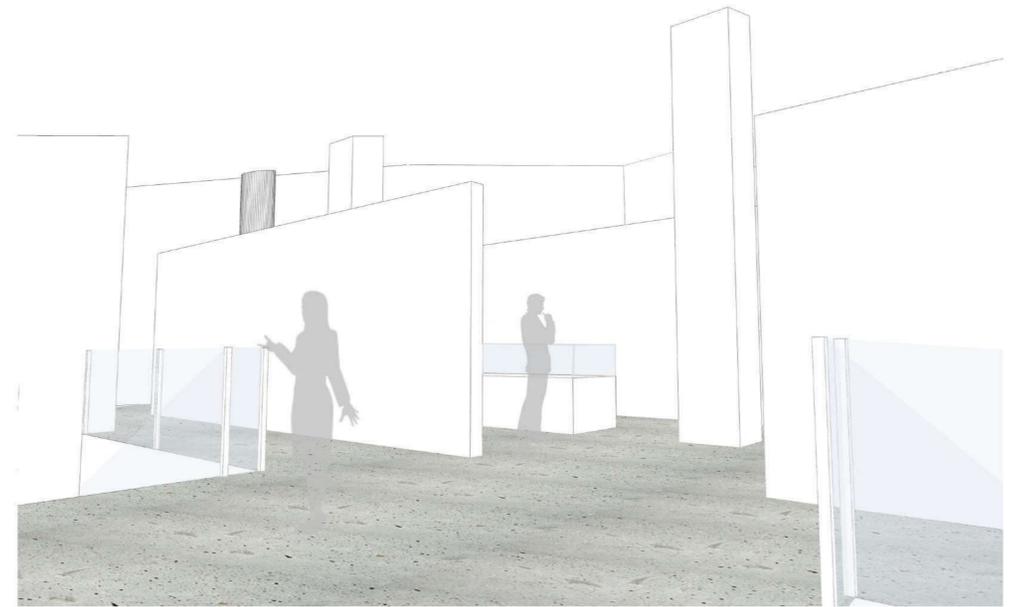


大久野島の灯台としての役割





大久野島歴史資料館一階



大久野島歴史資料館二階

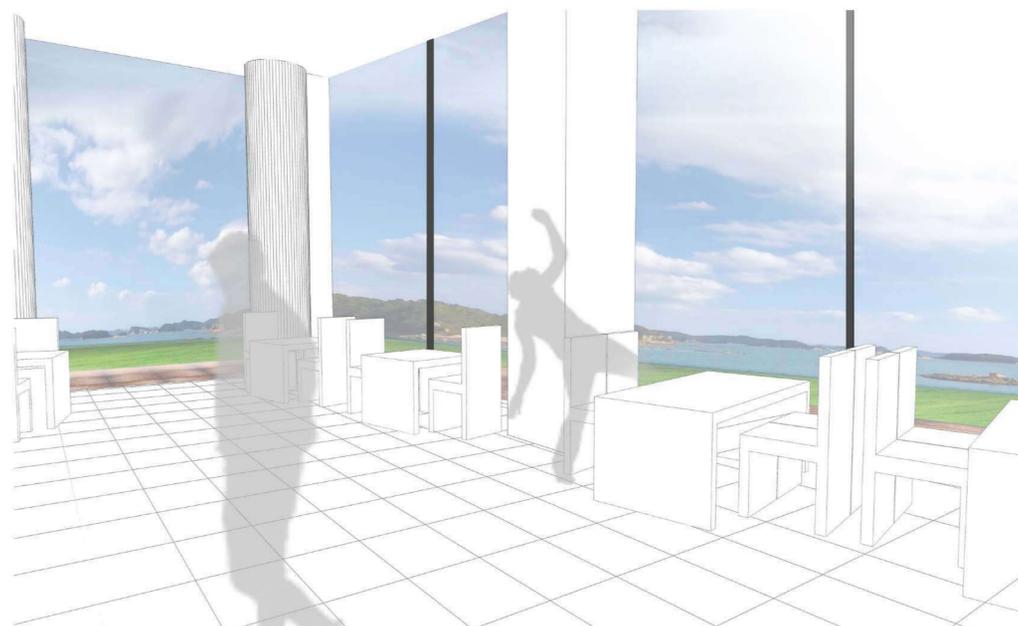
大久野島歴史資料館展示室

大久野島には現在毒ガスや、大久野島における生態系の資料館は存在している。別の建物で大久野島のことを知っても大久野島についてを深く知ることはできないと考える。

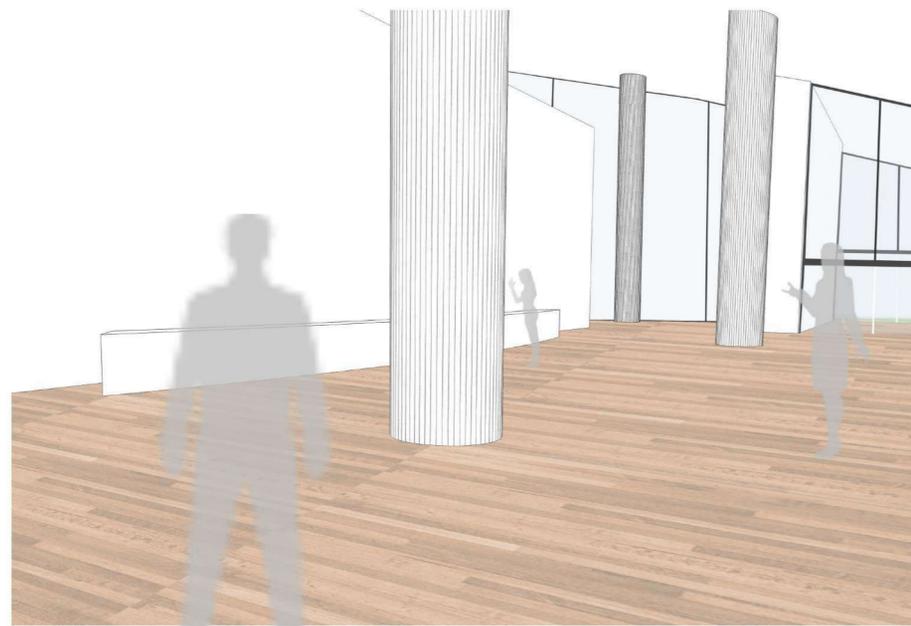
この空間は毒ガスや生態系を含める大久野島の歴史についてより深く、正しく理解をするため大久野島歴史資料館である。

一階の展示スペースでは、主に大久野島に生息する野ウサギについてを学ぶ。

二階の展示スペースでは、主に大久野島で製造されていた毒ガスについて学ぶ。



レストランと瀬戸内海の景色の関係



エントランスホール



地面から見上げた展望台